

関係各位

日本ローイング協会 審判委員会スタッフ
WR 国際審判 (No.1627) 中島 大祐

【大会参加報告】 2022 World Rowing Championships (Racice, Czech Republic) 2022/9/18~25

1. はじめに

- (1) 2022年9月18日(日)~25日(日)にチェコ共和国 Racice の Racice Regatta Venue で開催された World Rowing Championships (シニア世界選手権) に ITO 審判員 (Jury) として参加した。
- (2) 私自身、2016 World Cup 1、2017 WR U-23 Championships、2018 World Cup 1 に次ぐ、4 回目の WR 主催大会にして、初のシニア世界選手権の審判業務であった。
- (3) 審判業務を行う傍ら、健常者チームの選手 8 名・スタッフ 5 名、パラローイングチームの選手 3 名・スタッフ 4 名のサポートに心掛けた。
- (4) また今後日本が国際大会を実施・運営する際のヒントを得るべく、WR 及び現地組織委員会 (Organizing Committee=OC) との会話を通じ、有用な情報の収集に努めた。提出が遅れ申し訳ありません。

2. 総括

審判業務の詳細報告の前に今回の大会で特筆すべき事項や WR 主催大会の特徴 (WR の近年の新たな取り組み等) について記載する。

(1) 新型コロナウイルス感染症の影響

Heat から Final A まで、健康上の理由による Withdrawal が 9 件、Replacement/Substitution が 9 件あった。個別の理由は明かされないがコロナの影響が多かったのではないかと。

また ITO 18 名の内、BUL・HUN・RUS の 3 名が不参加となり、FRA・GBR・CRO の 3 名で穴埋めした。この内、CRO の Djuro は元々 Spare (=補欠) にもリストアップされておらず、大会直前に要請を受けて参加したとのこと。

大会会場での感染症対策として、ダイニング (仮設の大型テント内) ではマスク着用が義務付けられ、不所持者には入口で不織布マスクが配布されていた。ビューッフェの列ではマスクをした状態が守られていたのに対し、食事中的の会話は特に禁止されていなかった。(「黙食」は日本特有のものではないかと思われた。) またシャトルバス車中と大会会場の「屋内」ではマスクをするとの取り決めとなっており、TMM 等でも周知されていた。



(写真) マスク着用サイン

(2) 表彰式と実況放送

例年の WRCH 同様、Final A は次の通り Day 6 から実施された。大会日程が 8 日間あり、Final A を最終日に集めずに分散することで、延べ観客数を増やそうという WR の意図の表れだと思う。

- ・ Day 6 (金) 非 Olympic/Paralympic 11 種目
- ・ Day 7 (土) Olympic/Paralympic の中の 10 種目
- ・ Day 8 (日) Olympic/Paralympic の中の 8 種目

表彰式は「次のレースの終了直後」に行われる。大会会場での実況放送は、レース①~③を例にすると以下の通りで、これが繰り返されて行く。



(写真) 表彰式待ちの選手

- ・レース X : スタート直前の選手紹介（詳細は後述）
- ・レース X : 実況（Tower Announcer → 車両追尾の Commentator → Tower Announcer）
- ・レース X : 着順発表（Unofficial Result の段階）
- ・レース X-1 : 表彰式実況
- ・レース X+1 : スタート直前の選手紹介（詳細は後述）（この流れが順繰りに続く）

上記の通り時間的には綱渡り状態で、表彰式の担当者と President of Jury（以下 PoJ）との間で無線連絡を取り合いながら細かなタイムマネジメントを行っており、時間内に収まらない場合には発艇定刻を若干遅らせたり、反対に表彰式を後回しにしたりという判断を行っている。今大会では PR1 M1x の表彰式がスケジュール通りの 13:30 頃ではなく最終レース（W8+）後の 15:00 時過ぎに行われた。（表彰式用の揚陸ポンツーンから地上レベルまでが急な上り坂だったため、PR1 選手はつづら折りの In Pontoon で陸に上がり、車いすで表彰式まで来ていたためかもしれない。）その影響で M1x と W8+ の表彰式が 10 分ほど後ろにずれ込んだものの、レースと表彰式が交互に繰り返されるリズムは維持された。次に述べる発艇直前の選手紹介を含め、ボートの魅力を観客に最大限に伝えようという WR の思い入れを感じる。

(3) 発艇直前の選手紹介（Athlete Introduction）

WR がここ数年、力を入れている発艇直前の選手紹介が全ての Final A（及びそれ以外の幾つかのレース）で行われた。要領は次の通り。

- ・ Starter が 2 minutes をかける。（この前に Rasing Start System を終わらせておく。）
- ・ Starter がクルーへの警告等（もしあれば）を行う。
- ・ 発艇定刻 1 分 40 秒前から 30 秒前までの間、Tower Announcer が 1 クルーずつ紹介。この音声は Start 地点でも（クルーにも）聞こえる。
- ・ 30 秒前に音楽が止まり、Starter のロールコールから発艇号令までが Finish 地点でも（観客にも）聞こえる。

選手が紹介されると観客スタンドから歓声が湧き、会場の盛り上げに十分な効果が感じられた。一方で実際のアナウンスは 1 分 20 秒前から 20 秒前くらいにかけて行われるレースが多く、10 秒前くらいまで食い込むこともあり Starter 泣かせであった。まだまだ発展途上の感は拭えない。

(4) アスリートレーンセレクション（Athlete Lane Selection）

WR としては、2018 年 WC-1 Belgrade SRB (LW1x・LM1x のみ) を皮切りに、2022 年 WC-2 Poznan POL (Repechage 以降の一部のレース) と WC-3 Lucerne SUI (Repechage 以降の全てのレース) で試行された。まだ試行錯誤の段階であると審判セミナーで説明があったが、今回の WRCH では導入されなかった。

(5) 水上レスキュー体制

地元の消防関係者と思われる一団（赤い制服）が水上レスキューを担当しており、大会前日のレスキューリハーサルを含め統率の取れた動きを見せていた。

PR1 M1x JPN 森選手が敗者復活戦のスタート直後に具合が悪くなったことを Umpire に訴えた後に多少持ち直し、フィニッシュまで漕ぎ切った。レース中に審判とレスキューの間で無線による情報共有がなされ、フィニッシュ直後にレスキュー艇 3 艇が選手をゴムボートに移乗させ、別のゴムボートが無人の艇を曳航した。最初はラバーボート上から選手の移乗を試みたが困難であったため、レスキュー 2 名が泳いで競技艇に近付き、ようやく移乗させることができた。レスキューには咄嗟の判断とチームワークが重要だと改めて認識した。

Day 4 午前に主審を務めたが、PR1 の W1x・M1x の Repechage でレスキューボートが 100m から 250m くらいまでレースを追航していた。レスキューチーム内で PR1 種目に関し何らかの申し合わせがあったのだと思う。その直後の健常者の M1x (Quarter Final) でも最初の 1 レースのみ追航していたが、それが勘違いだったのか、何らかの危険を予見してのことだったのかはわからない。翌朝 Day 5 の Jury Meeting で PoJ から「レスキューボートが追行していたら止めること」と指示があった。



(写真) レスキューチーム



(写真) 空港の輸送デスク



(写真) ホテルの輸送デスク

(6) 人員輸送体制

チーム・大会役員等の人員輸送は現地 OC の Transport グループが担当し、Karavany Cesko 社が所有する車両を中心に運営していた。使用していた車両のタイプ (人数は定員) は以下の通り。

- ・大型バス 40 人乗り (ホテル⇄会場)
- ・ミニバン 7 人乗り (空港⇄ホテル、運転手は Transport グループのボランティア)
- ・小型乗用車 4 人乗り (同上)

Transport リーダーの Mr. Krpata は、会場のバス乗降場にあるテントで業務にあたり、Excel を日々更新しながら配車していた。大会当初は「変更が多くて大変だ！」と苦笑いしながら寝不足気味の顔をしていた。

今回だけでなく過去に Plovdiv BUL でも Belgrade SRB でも感じたことだが、Transport リーダーが WR や European Rowing (以下 ER) が主催する大会の輸送に慣れており、勘所を押さえた運営をしているということである。(組織で対応していると言うよりは Transport リーダーが一手に引き受けている印象が強い。)

(7) CZE の国際審判員養成

今大会期間中に実施された WR 審判員試験で地元 CZE の Ms. Helena Klementova が 25 歳の若さで合格した。CZE は過去にも世界最年少 (その時も 25 歳) の合格者を出しているとのこと。欧州では自国開催の WR イベントや ER イベントに加え、陸続きである他国開催の International Regatta にも NTO として参加することが通例となっていること、英語圏でなくても英語を使いこなせる人 (特に若手) が多いこと、等が若くして WR 審判員を継続して排出する背景にある模様。(今大会の NTO は地元 CZE を主体としつつ FRA・GER・AUT・POL・LTU・USA・ARG から 1~2 名ずつ受け入れていた。)

これを日本に置き換えて考えると、現時点では国内に国際大会の機会は殆どないため、アジア各国の ARF イベントに出掛けるか、WR/ER イベントに出掛けるかの何れかということになる。NTO で出かけて行くと交通費の自己負担がネックになるが、今後、国際審判員を目指す方には NTO としての国際大会参加が 1 つの近道であることを提言したい。

3. 大会概要

(1) 日程

- 9月16日（金）＜Day マイクス2＞ 15:00 Preliminary TMM、16:00 First Jury Meeting
9月17日（土）＜Day マイクス1＞ 08:30 Jury Meeting、10:30 Course Inspection、12:00 Spare Race、
15:00 TMM & Draw、19:30 Opening Ceremony（ITO 参加は任意）
9月18日（日）＜Day 1＞ Heat、15:00 Umpire Seminar①
9月19日（月）＜Day 2＞ Heat、Preliminary Race、Repechage
9月20日（火）＜Day 3＞ Heat、Preliminary Race、Repechage、15:00 Umpire Seminar②
9月21日（水）＜Day 4＞ Repechage、Quarterfinal、Semifinal E/F、Final E
9月22日（木）＜Day 5＞ Repechage、Semifinal A/B C/D、Final E-F
9月23日（金）＜Day 6＞ Repechage、Semifinal A/B、Final A-D
9月24日（土）＜Day 7＞ Final A-D、19:30 Nations Dinner
9月25日（日）＜Day 8＞ Final A-D、Exhibition Race、Closing Ceremony

(2) 競技会場

チェコ北西部 Usti nad Labem 地方の Racice にある Racice Regatta Venue（現地名 Labe Arena Racice）。プラハ市内からシャトルバスで 40～50 分。近くには Labe 川が蛇行して流れており、川から水を引いて作られた人工コース。シニア世界選手権を開催するのは 1993 年以来とのこと。

(3) コース概要

コースは東西に長く、西側がスタート、東側がフィニッシュ。全長は 2,350m（スタート前 100m、フィニッシュ後 150m）、レーン幅は 11.9m。

スタートから見て向かって左から（北から）0～8 レーン（合計 9 レーン）がある。2018 WR U-19 Championships の時は 0～7 レーン（合計 8 レーン）で、回漕にはセパレートコース（幅 30m）を使っていたが、その後、水位が下がってセパレートコースを使えなくなったため、メインコースを 9 レーンに増やし、回漕・ウォームアップ・クールダウンの全てをメインコースで行うことにしたとのこと。（Bulletin（要項）でレーン幅 12.5m との記載があるのは 8 レーン時代の名残なのかもしれない。）

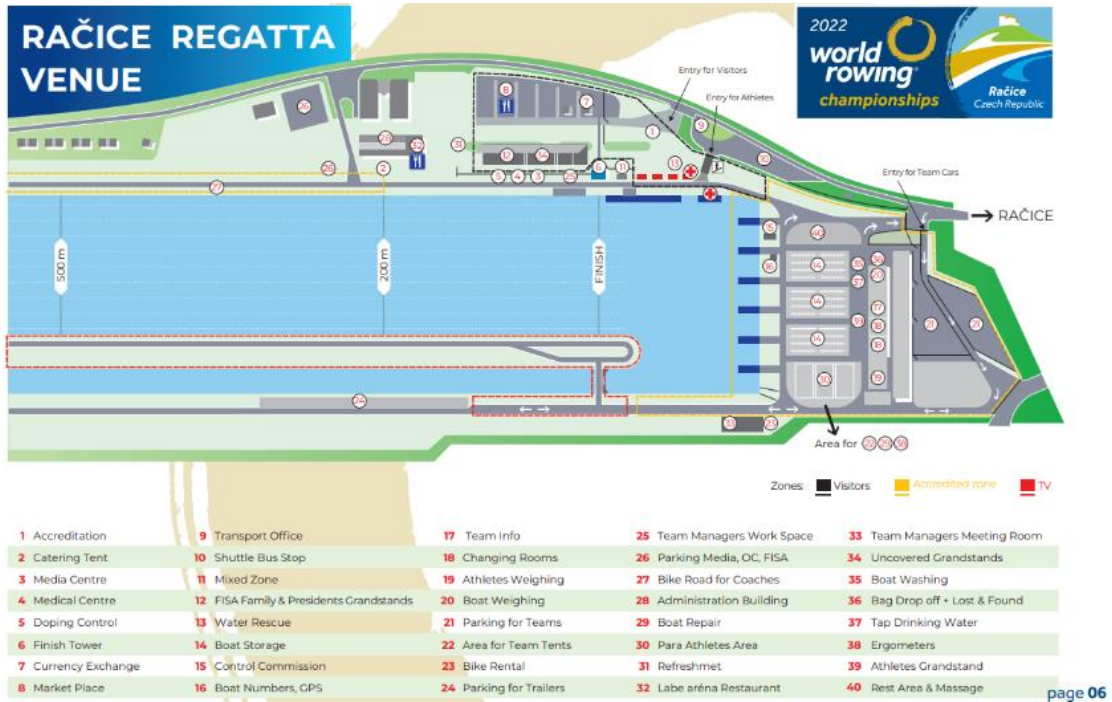
判定塔を含む陸上施設は北側にある。テレビ中継車は判定塔対岸（南側）を走るため、テレビ画面では上方（対岸側）から順に 0→8 レーンとなるが、判定塔では手前から順に 0→8 レーンとなる。



（写真）グラウンドスタンドとフィニッシュタワー



（写真）In/Out Pontoon から見たコース

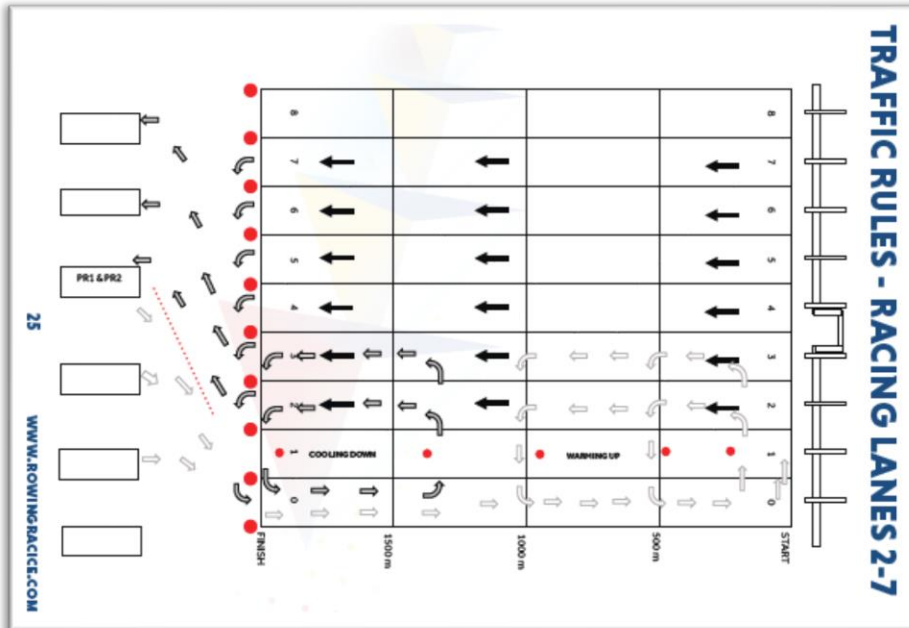


(4) 使用レーンとウォームアップ・クールダウン・回漕レーン

0~5レーン、1~6レーン、2~7レーン、3~8レーンの4パターンの中から Fairness Committee がセッション開始45分前に選択する。W-Up/C-Down/回漕レーンとの組み合わせ、及び実際に使用したレース日は以下の通りである。

使用レーン	W-Up/C-Down	進入禁止	回漕レーン	使用日
0~5レーン	5~6レーン	7レーン	8レーン	—
1~6レーン	5~6レーン	7レーン	8レーン	Day6/7/8
2~7レーン	2~3レーン	1レーン	0レーン	Day1/2/3/4/5
3~8レーン	2~3レーン	1レーン	0レーン	—

1~6レーンの時も2~7レーンの時もW-Up・C-Downはレースで使用するレーンの一部(5~6レーンや2~3レーン)でレースが通り過ぎた後に行われる(戸田の運用と似ているが更に複雑)。陸上マーシャルが大声でクルーをコントロールして危険回避に当たっていた。



(5) 種目

以下オリンピック 14 種目、パラリンピック 4 種目、非オリ・パラ 11 種目が行われた。65 ヶ国から 402 クルー、943 人がエントリー。

	<u>オリ・パラ種目</u>	<u>非オリ・パラ種目</u>
オリ・オープン	1x/2-/2x/4-/4x/8+(M/W)	
オリ・軽量級	2x(M/W)	1x/2-/4x(M/W)
パラ・PR1	1x(M/W)	
パラ・PR2	2x(Mix)	1x(M/W)
パラ・PR3	4+(Mix)	2-(M/W)/2x(Mix)

4. 審判 (全般)

(1) 集合・解散、宿泊、食事、移動

- ・集合： 9月16日(金) Day マイクス2 16:00 First Jury Meeting
- ・解散： 9月25日(日) Day 8 最終レース(14:59 発艇) 終了後
- ・宿泊：プラハ中央駅から北東に 8km 程度のプラハ 9 地区にある「Hotel Duo」で、チーム・役員が多く宿泊する今回のメインホテルであった。朝食・夕食会場は、時間帯を分けて利用するようになっており、混雑してどうしようもないという状態ではなかった。
- ・昼食：会場のチーム・役員用ダイニング(大型仮設テント)で摂った。ミールクーポン(1日1枚)は、大会2日前の集合時に WR オフィス(フィニッシュタワー内)で受領。ダイニングでの食事に間に合わない Day 6~8 は、11 時頃にランチボックスが配布された。
- ・移動：ホテル→会場はシャトルバスで 40~50 分。第 1 レース 90 分前に Jury Meeting、その 60 分前にバス出発。(例：Day 1~5 は 07:00 ホテル出発、08:00 Jury Meeting、09:30 レース開始) 会場以外への移動については、地下鉄の Strizkov 駅まで徒歩 5 分。Strizkov からプラハ市街地へは地下鉄で 15 分程度と便利なロケーションだった。

(2) ITO/NTO/WR 役員

President of Jury : Fabio Bolcic ITA (2022 年末で 70 歳定年のため今大会で引退)
ITO : 18 名 (欧州 11 名、米州 3 名、オセアニア 1 名、アフリカ 1 名、アジア 2 名)
NTO : 約 50 名 (地元 CZE の他に Phillip GER、Inga LTU、Lucia ARG、AUT、POL、FRA、USA)
Umpiring Commission Chair : Patrick Rombaut BEL
Umpiring Commission Member (以下 UC): Kris Grudt USA、Vladimir Meglic SLO、Angela Alonso ESP
Technical Delegates : Eva Szanto HUN、Victoria Aguirregomezcorta ARG

(3) 審判内コミュニケーション・部署移動

毎朝、レース 90 分前に TMM ルームで Umpiring Meeting を実施。レース終了後は Meeting なし。
PoJ/UC/NTO からの注意事項 → Duty List と Start List 配布 → 各部署へ出発、という流れ。
Umpire は 45 分前に乗艇。Starter/Judge at the Start は 45 分前にミニバンが出発。
Fairness Committee による使用レーンの決定は 45 分前。航行ルールの切り替えは 15 分前。
トランシーバーは以下メンバーが使用し、毎朝 Finish Tower 1 階の部屋で受け取った。
(それ以外の審判用具は NTO・ボランティアが準備してくれていた。)
・ PoJ ・ Patrick ・ NTO Lead (Jan Havlicek CZE) ・ Starter ・ Judge at the Start
・ Resp CC ・ U1~6 ・ Rescue Boat ・ TV Catamaran (John Biddle GBR)

WhatsApp によるグループが作られ、PoJ/Patrick/UC 3 名/ITO 17 名（1 名は使用不可）の間で使用レーン等、レースに関する連絡の他、移動時刻、食事時刻などの確認等に使われた。

(4) 審判業務以外の行事

開会式は、Day マックス 1 の 19:30 から会場で行われた（ITO の参加は自分 1 人だけ）。

Nations Dinner は、Day 7 の 19:30 からダイニング（大型テント）で行われ、ITO 全員が参加。

公式な Jury Outing はなかったが、レースが 12:35 に終わった Day 4 の 15 時過ぎからプラハ市内の観光と ITO/NTO 合同の懇親会を地元 CZE の ITO/NTO が企画してくれた。

Jury Photo（ITO のみと ITO+NTO）は、Day 7 の 08:55 から Media Center 前で撮影された。

Umpire Seminar は、Day 1 と Day 3 の 15～18 時に、会場近くのクラブハウス会議室で行われた。

5. 審判（業務面）

(1) 担当部署

以下部署を担当した。

Day -1	12:00-12:36 (9 spare races)	U-1		
Day 1	09:30-11:36 (19 races)	U-1	11:51-13:22 (14 races)	Start
Day 2	09:30-12:53 (32 races)	Finish	15:30-17:01 (14 races)	CC In
Day 3	09:30-13:08 (28 races)	CC Responsible		
Day 4	09:30-10:49 (11 races)	U-1	11:04-12:35 (14 races)	Start
Day 5	09:30-10:50 (9 races)	Judge at Start	11:05-12:55 (12 races)	U-2
	15:00-16:35 (20 races)	U-2		
Day 6	10:15-12:45 (18 races)	CC In	13:05-15:50 (11 races)	U-6
Day 7	10:00-11:12 (11 races)	U-4	11:30-12:44 (10 races)	CC In
	13:05-15:26 (10 races)	Finish		
Day 8	10:40-14:59 (23 races)	CC Athlete Weighing		

(2) Starter・Assistant Starter（発艇）

① 部署メンバー

・ Start Tower にいたメンバーは次の通り。

- ・ Starter (ITO)
- ・ Assistant Starter (ITO)
- ・ NTO : Mr. Phillip (GER)
- ・ UC (誰か 1 人)

・ WR の Championships は ITO の人数が潤沢のため、Assistant Starter も ITO が務める。Starter と Assistant Starter は 2 人組になり、同じ Session（午前とか午後）の中で交替しながら業務した。

・ 今大会では Day 1 の午後は、9 レース（2 種目の Heat）で Assistant Starter に、その後の 5 レース（1 種目の Heat）で Starter に指名され、Day 4 の午後は、8 レース（2 種目の QF）で Starter に、その後の 6 レース（4 種目の Repechage 等）で Assistant Starter に指名された。

・ 何れも直前の部署は Umpire（U1 又は U2）で、交替のための時間はレース間隔で 15 分間しかなく、Catamaran を降りて陸上のトイレに走り、Start tower に駆け戻ると、すぐに 5 minutes をかけるタイミングであった。

・ Start Tower に常駐していた NTO の Mr. Phillip (GER) がよく ITO をサポートしてくれた。

② 基本動作

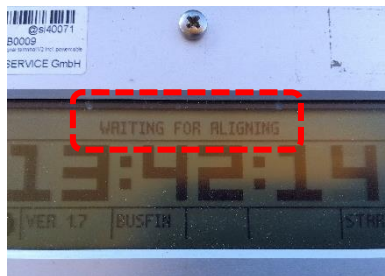
- ・ Assistant Starter は待機水域のクルーを双眼鏡で確認し、Starter に伝えた。次のレースなのか、それ以降なのかを素早く見極めることが重要と感じた。
- ・ Start List には Bow No.しか印刷していないので Lane No.は手書きしておくが良い
- ・ クルーとの以下のような音声コミュニケーションは、マイクを装着した Starter が行う。
 - ・ 呼び込み
 - ・ クルーへの注意やイエローカード付与
 - ・ Zonal 時の U-0 の役割
- ・ また Judge at the Start との音声コミュニケーションもインターホン（ヘッドセット）を装着した Starter が行う。
- ・ Start には念のためにハンドマイクが用意されていたが、結局、一度も使わなかった。
- ・ 飲料ボトルをクルーがポートホルダーに投げることは禁止されている。イエローカード対象ではなく Reprimand として事後にチームにメールしたり、TMM で伝えたりしているとのこと。
- ・ PoJ からミーティング時に説明があったのは以下諸点。
 - ・ Attention! は Roll Call に続けて、あたかも 7 杯目のクルーのように（日本とは異なる！）
 - ・ 赤ボタンは Attention! と同時ではなく「後」に押すこと
 - ・ 6 杯レースなら定刻の 20~25 秒前から Roll Call を始めると良い
 - ・ 国名の発音が変わった国は注意すること（例：Turkey は「トゥルキーイエ」のように）

③ ハードウェア

- ・ 今大会では、Start Signal（発艇合図信号、Swiss Timing（以下、S/T）社製）と Automatic Starting System（自動発艇装置、HUN の Polaritas 社製）を使用した。（Starting System は、黄色ボタンで水面に浮上し、リセットしたい時は緑ボタンで沈む。）何れも会場に常備されている備品とのこと。
- ・ これら装置を動かすスイッチボックスと Start Tower 前面にぶら下げる大型デジタル時計は、ここ数年で進化しており、2018 年以前に使用したものと以下諸点が異なっていた。
 - ・ 2 minutes 黄色灯は、従来は点灯し回転する方式だったが、デジタル時計の両脇の大型黄色 LED（縦型の長方形）が点滅する方式になり、視認性が向上した。
 - ・ 黄色灯の On/Off ボタンがスイッチボックスに組み込まれたので（従来のように Assistant Starter ではなく）Starter が On/Off するようになった。
 - ・ Judge at the Start が白ライトを点灯させるまで、スイッチボックスのディスプレイ（時刻表示の周辺）に「Not aligned yet」の文字が表示されるようになった。



(写真) スイッチボックス



(写真) "Waiting for aligning"



(写真) 奥 Starting System ボタン

- ・ スタートフィンガーは、発泡スチロールの浮棧橋を組み合わせたようなものが当会場に数年前に導入されており、靴の裏で軽く蹴るようにして前後に動かす機能はスムーズに見えたが、浮体全体が捻じれることがありそうな感じであった。



(写真) スタートフィンガー



(写真) フィンガー先端



(写真) 発艇合図信号

④ ユニフォーム

- ・ Race 30/M2x Heat 2/No.2 CIV のアンダーシャツが、色は揃っているが袖の長さが異なる。「CIV, uniform」と言うとすぐに気付いて2人とも脱いだ。
- ・ Race 121/LM2x QF3/No.5 ESP の T シャツの袖のスポンサーが異なっていたので「Take off or turn over!」と言うと「Same!」と言い返してきたが、更に「Advertisement!」と言うと T シャツを脱いだ。
- ・ Race 123/M2x QF1/No.6 CIV の帽子が2人とも紺色だが片方に白いストライプがあったので指摘すると1人が脱いだ。

⑤ 陸上マーシャル

- ・ 陸上マーシャルの NTO は W-Up レーンがある岸の 100m 付近に3~4人いて「Stop the boat」などの指示をクルーに出していた。発艇すると「USA, go to lane 3」のように言うので、Starter の呼び込みではなく、陸上マーシャルの指示でクルーが自己レーンに入ってしまった。0m に近づいてからではなく 100m から斜めに自己レーンに入るクルーも誘発してしまっていた。

⑥ 反省点

- ・ Race 120/LM2x QF2 のロールコールで No.2 POR をポルチュガルと呼ぶべきところ誤ってポルチュギースと呼んでしまったが、その時には誤りだと気付かず発艇させてしまった。(ジャパンをジャパニーズと呼んだようなもの。) 国名を間違えた場合等はロールコールを最初からやり直すことを励行したい。

(3) Judge at the Start (線審)

① 部署メンバー

- ・ Aligner Hut 線審小屋にいたメンバーは次の通り。
 - ・ Judge at the Start (ITO) : 自分
 - ・ Aligner (NTO) : Ms. Sarka (CZE)
 - ・ S/T ボランティア : Mr. Michal (CZE)
 - ・ S/T 社員 : Mr. Uwe (ウーベ)

② 基本動作

- ・ 今大会では Starter が発艇ボタンを押すと、連動して画面がフリーズするシステムを使用した。
- ・ Aligner (NTO) は直接艇首を見るのではなくフリーズシステムのスクリーンを見て艇を揃える。ポートホルダーへのトランシーバーによる指示は現地語で行う。
- ・ Judge at the Start は艇首が揃ったと判断したらスイッチボックスの白ボタンを押す。Starter 手元のスイッチボックス内の白ライトが点灯するので、Starter には艇首が揃ったことがわかるが、線審旗を使わないので Starter 以外 (Umpire 等) には艇首が揃っていることがわからない。
- ・ 発艇直後、Judge at the Start はフリーズしたスクリーンを見て False Start を瞬時に判断する。False Start の場合、スイッチボックスの False Start ボタンを押す。その結果、発艇合図信号の緑ライトが消える代わりに赤ライトが点滅し、その点滅に合わせてブザー音が断続的に鳴る。

・ Automatic Start System を起動させるのは一般的には 2 minutes コールの後とされているが、今大会では Athlete Introduction があるため、2 minutes コールの前には Start System を上げておくよきよとの PoJ の指示があった。Starter と相談し、Judge at the Start から Starter にインターホン（ヘッドセット）で伝える「Line is clear!」は 3 minutes コールの直後に言うことにした。

・ S/T ボランティアは Finish Tower の S/T ボランティアとインターホン（ヘッドセット）で常時繋がっており以下の通り情報を伝えている。

- ・ 「White light!」（Judge at the Start が白ライトを点灯した時）
- ・ 「Attention!」（Starter が Roll call を終え、Attention!を言う直前）
- ・ 「Start OK」（Judge at the Start が False start がないことを認め、小声で OK と言ったりサムアップをしたことを確認した時）

・ Starter の補助業務として、バウボール・バウナンバー装着、ステッカー貼付、服装統一、大会 T シャツ着用（SF-A/B 以降）等を確認し、問題があれば Starter に伝えた。

③ ハードウェア

・ 発艇合図信号は基本的に Starter がスイッチボックスのボタンを押して操作するが、Judge at the Start も白ライトと False Start は操作できるような機構になっている。

・ フリーズシステムのカメラは 0~8 レーンを全て画角（縦方向）に入れようとしたためか対岸側（遠く）の 7・8 レーンの艇首をディスプレイ上で確認するのが困難だった。S/T の Mr. Uwe にディスプレイ上で色々と調整してもらったが改善しなかった。カメラは小屋の前面（コース側）に設置されていたのだが、そこから 0 レーン（一番手前のレーン）までが近すぎ、カメラを「引き」の状態にしないとディスプレイに全てのレーンが映らないというのが原因だった模様。カメラの設置は S/T が行い、大会の Technical Delegate（以下 TD）が Day マイクス 2 の Technical Equipment Test 時に他の設備と共に確認を行う。



(写真) Aligner Hut 全景



(写真) フリーズモニター



(写真) スイッチボックス

(4) Umpire（主審）

① 部署メンバー

・ カタマランの操縦者 Catamaran Driver は地元ボランティアが務めた。スキルあり+英語可のボランティアが多く頼もしかったが、スキルあり+英語 NG が 2 名いて、そのような Driver に当たった時には身振り手振りでコミュニケーションをとった。

・ Day マイクス 1（Spare Race 時）の若いボランティアは、英語は流暢だったものの操縦は極めて不慣れで危険すら感じたため、PoJ に伝えて Driver からは外してもらった。

② 基本動作

・ 近年の WR 大会同様、Final A は Dynamic Umpiring（追行方式）、それ以外は Zonal Umpiring（定点方式）であった。

・自分が U-6 を担当した Day 6 午後は全て Final A の Session だったので Dynamic Umpiring で進行した (2 レースを担当)。U-1、U-2、U-4 を担当したその他の Session は全て Zonal だった。

・Zonal では U-1 から 6 まで順に 100・450・800・1150・1500・1850m のコース外 (U-4 のみ W-Up 側、その他は対岸) でコースに直行する向きで待機し、全レース艇が通り過ぎた直後にコース中央まで移動の後、Finish 方向に 90 度向きを変えレースを見守る。次の審判艇がコースに入り始めたら、コース外の待機地点に戻る。

・2 日目朝のミーティングで PoJ から「コース中央まで移動したらカタマランをフィニッシュ方向に向けること」と念押しがあった。

・担当水域で重要な事態が発生したら、無線で次の Umpire に引き継いだり、手元にメモしておくよう PoJ から注意があった。また U-6 (1850m) が Finish まで追行するのは誤りであると Patrick 委員長から念押しがあった。

・接触・妨害の恐れやクルーへの危険がある場合は、自分の担当 Zone を越えてフィニッシュ方向に追行しても良いことになっている。しかし自分のすぐそばを通過した際には問題がなくても、150~200m 離れてから (まだ次の Umpire の Zone に達する前に) 問題が生じた場合には、遠くから警告 (注意) を行うしかない。ハンドマイクは日本で使うものより出力が低い (5~10w 程度) ものも多く、警告の声が届かないことが度々発生するのが現実である。

・Final A の Session では U-1 が最初のレースの追行終了後に「Admiral=提督」として Finish Line を過ぎた辺りに常駐する。(追行は U-2 から U-6 までの 5 艇が順番に対応する。) Admiral の役割は、Finish 後のクルーに 1~3 位を伝え、Victory Ceremony に速やかに向かうよう指示をすることである。1~3 位のクルー名は、Finish Tower 内の情報を UC メンバー (今回は Patrick 委員長) が無線で Admiral に伝える。

・Catamaran の曳き波については、Day 2 レース終了直後のトレーニング時に Catamaran が高速で航行したと TMM でクレームがあったことが、Day 3 朝のミーティングで PoJ から共有された。

③ Fairness Committee による Catamaran 使用

・Umpire Catamaran は第 1 レース 45 分前に水上に出るので棧橋に行ってみたが、そのタイミングで Fairness Committee が Catamaran を使っていてなかなか戻ってこなかった。Patrick 委員長からは無線で Don't be panic! (慌てるな) と諭められたが、事後に Fairness Committee に関する記述に「30 分前に使用するレーンを決定する」と定められていることがわかった。Umpire Catamaran 以外に Fairness Committee が使える舟艇を用意できれば混乱が避けられると思った。

<https://d2cx26qpfwuhvu.cloudfront.net/worldrowing/wp-content/uploads/2022/07/20094304/Fairness-Committee-and-Functions-July-2022.pdf>

④ W-Up クルーとの衝突の危険性

・レースで 2~7 レーンを使用する時は、W-Up・C-Down が 2~3 レーンのため、U-4 (1150m) を除く Umpire Catamaran は 8 レーンで待機する。U-1 (100m) は 100~150m でコース中央 (4~5 レーン等) に進入し、フィニッシュ方向に向き直るのが、その後すぐに、100m の 0~1 レーンから 2~3 レーンに W-Up クルーが入ってくるため衝突に気を付けた。また次のレースに呼び込まれたクルーが 0m からスタート練習をすると 100m を越えて漕いでくることもあり、これは対象が 2~7 レーンなので真後ろから追突される恐れがあり、これにも注意した。

⑤ TV Catamaran (カメラ艇)

・TV Catamaran が撮影を始める Day 5 は TV Catamaran リーダーの Mr. John Biddle から Umpire に対する以下要望事項の説明があった。

・2 台の TV Catamaran は 0~1000m と 1000~2000m をリレーして追行する。

・TV Catamaran は Umpire Catamaran の後ろに位置するが、Umpire Catamaran はレーン内の中央ではなく、右か左に寄ってほしい。

・使用レーンが 1-6 の場合は 0 から、2-7 の場合は 8 から、それぞれコース内に入る。

・0~1000m 対応 TV Catamaran の動きを Umpire Catamaran から観察したところ、発艇から 3 分後まで追行・転回の後、レース速度でスタート方向に戻り、6 分後には次レース追行スタンバイの状態になり、これを繰り返していた。

・Zonal Umpiring の際に Umpire Catamaran が TV Catamaran の前に入るのとは不可能であった。TV Catamaran が遠くのレーンであれば、手前のレーンに入り、TV Catamaran が手間のレーンであれば、後ろから回ってコースに入るのが現実的だった。

⑥ Rescue Boat (救助艇)

・No.199 LM1x Final A #4 SUI が 2Q で沈。レスキューチームに出動要請する無線は「Rescue! Rescue!」と若干穏やかな口調だった。クルーは自力乗艇し、他のクルーより 2 分ほど遅れて漕ぎ切った。クルーは近寄ってきたレスキューチームに「Don't rescue! I need time!」(救助しないでくれ、記録がほしい)と言ったそうである。



(写真) カタマラン



(写真) 審判用具



(写真) PoJ のドライバー指導

(5) Judge at the Finish (判定)

① 部署メンバー

・Finish Tower にいたメンバーは以下の通り。

- ・Responsible Judge at the Finish (ITO)
- ・Judge at the Finish (ITO)
- ・NTO ブザー担当
- ・NTO ナンバーボタン担当
- ・PoJ
- ・UC (Patrick 委員長)
- ・S/T ボランティア
- ・S/T 社員 (4~5 名)



(写真) 左 Responsible 奥 Swiss Timing



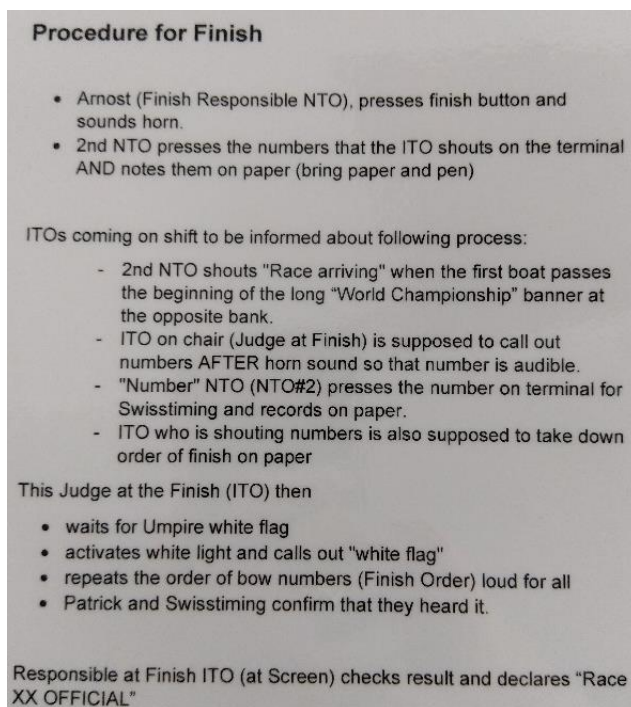
(写真) 左 Patrick 下段 NTO 2 名 上段 ITO

② Responsible Judge at the Finish の基本動作

- Responsible Judge at the Finish のルーティーンは以下の通り。
 - Photo Finish のスクリーンの前に座る。（決勝線は直接見ていない。）
 - スクリーン上で S/T が行う処理の内容を確認する。
 - S/T が印刷した Result Sheet を確認し、署名した上で「Race xxx, Official!」と叫ぶ。
（S/T は「Thank you!」と叫び、Result System の記録を Un-official から Official に切替える。）
- Result Sheet にはサインをする特定の欄（場所）は定められていない。自分是用紙の右下に書いていたが、不安であれば Patrick 委員長や S/T に確認すれば助言してくれる。

③ Judge at the Finish の基本動作

- ルーティーンとして Judge at the Finish と NTO は以下のような発声及びアクションをした。
NTO : (Race が 1900m に差し掛かったら) 「Race arriving!」 → ITO : 「Thank you!」
NTO : 各クルーが Finish する瞬間にブザーを鳴らす。
ITO : (ブザーが鳴った直後に) バウナンバーを叫ぶ。
ITO : (Umpire の白旗を見たら) 「White flag!」
NTO : White light ボタンを押す。Umpire が見たことを確認したら消す。
ITO : 「I repeat the order, 3! 4! 2! 5! 1! 6!」
NTO : サムアップ又は「Thank you!」
- Final A では到達順のリポートをもた付くと PoJ から Admiral への無線連絡が遅れてしまう。
Day 7 午後に Judge at the Finish を務めた時は、配置についての最初のレースで White flag! からリポート開始まで少し間が開いてしまい、すかさず Patrick 委員長に 1~3 位をリポートされてしまった。次のレースから White flag! の直後に到達順をリポートするようにした。



(写真) NTO が用意した NTO (及び ITO) マニュアル

④ S/T の業務

上記 ITO の業務と対をなす S/T の業務は以下の通り。

- 各クルーが Finish すると（全クルーの Finish を待たずに）スクリーン上でパウボールにカーソルを合わせ、フィニッシュタイムとバウナンバーを特定して行く。（目にも止まらぬ早業!）

- ・「White flag!」を聞くと Result Sheet の形式で印刷し、Responsible Judge at the Finish に手渡す。
- ・「Race xxx, Official!」を聞くと、Result System の確定ボタンを押し、会場内の Score Board 及び WR Website で順位と Finish Time が公表される。(Website ではその直前まで「Unofficial」の文字が表示されている。)
- ・500m、1000m、1500m の中間計時は、2017 年から GPS=Official Result、Photo Finish=Back up。
- ・全艇 Finish から Result System で Official になるまでは 2 分から 3 分程度。
- ・Day 1~5 は 2~7 レーンを使用したため C-Down は 2~3 レーンの 1500~2000m で行われた。レース中に C-Down クルーがフィニッシュラインを通過したが、その旨をフィニッシュタワー内で共有し、NTO はブザーを押さず、また S/T は写真判定に含めなかった。
- ・S/T のインターホン (スピーカー) からは、Aligner Hut にいる S/T ボランティアからの「White Light」「Attention」の音声、「ピー」の信号音、「Start OK」の音声は順番に聞こえる。システム内の時計はスタートボタンに連動して動き始めるが、S/T は音を聞いてそれを再確認していた。

⑤ PoJ・UC (Patrick 委員長) の動き

- ・M4-の Heat 4 レースが終わった後、Patrick 委員長が S/T に「Event 6, Option 1, please!」と叫び、S/T (Mr. Rolf) が OK と応えていた。Event 6 は M4-のことで 19 エントリーだったため Repechage の組み合わせ方法が 2 種類あり、その内の Option 1 にするようという指示だった。その直後に S/T から Repechage の組み合わせが Patrick 委員長に手渡された。
- ・TD の Eva と Victoria を呼んで協議していたのは、Rule 通りに収まらないケースだった模様。
- ・15 分間で Starter と U-1、Assistant Starter と U-2、Judge at the Start と U-3 が交代する場合に、15 分間では間に合わないことが度々あった。No.52 の 15 分後に予定されていた No.53 は定刻通りに発艇できず 3 分弱の遅れとなってしまったが、PoJ が「No.54 は 2 分遅れ、No.55 は 1 分遅れ、その後は Back on track」と無線で各部署に連絡した。修正後の定刻共有は大事だと感じた。
- ・U-5 が Catamaran の不調でコース中央に移動できないと PoJ に無線が入る。PoJ は NTO に連絡を取り、交換を依頼した。
- ・GBR のブレードの裏が印刷されていないことを Patrick 委員長が CC に無線で連絡していた。最終日までに整えようとの雰囲気であった。

⑥ 反省点

- ・No.36 PR3 M2- Preliminary で 2 位と 3 位が 0.11 秒差で雪崩れ込んだ。5-3 のところを誤って 3-5 と叫んだところ Patrick 委員長から指を回す仕草があった。全クルーフィニッシュ後に「not 3-5, but 5-3?」と Patrick に確認し、White Light の後、「I correct the order, 1-5-3-2-4!」と叫んだ。
- ・No.37 PR3 Mix2x Preliminary で 4 位 5 レーンと 5 位 1 レーンが 0.46 秒差でフィニッシュ。5-1 のところを誤って 4-1 と叫んだところ、Patrick 委員長から「5-1!」と直された。
- ・上記何れのケースもナンバーボタン担当の NTO は既に誤った番号を押してしまっていたが、やり直しはできない。Photo Finish Camera が 2 台設置されている大会であり、ナンバーボタンは 3 番目 (バックアップの更にバックアップ) なので気にすることはないと NTO に慰められた。
- ・No.46 W2x Heat1 で 3~6 位が 2 秒の間にフィニッシュ。正しくは 3-1-6-4-2-5 でその通り叫んだが、手元のメモを間違え、読み合わせの際に 3-1-6-2-4-5 と叫んでしまい、Patrick に直された。

(6) Control Commission (出艇・帰艇棧橋監視)

① 部署メンバー

- ・Out Pontoon/In Pontoon 周辺にいたメンバーは次の通り。
 - ・Responsible Control Commission (ITO) 1 名
 - ・Control Commission Out Pontoon (ITO) 2 名

- Control Commission In Pontoon (ITO) 2名
 - NTO 4~5名
 - UC 1人
 - Out Pontoon ボランティア 4~5名 (S/Tの指示による Bow Number と GPS の脱着)
 - Wheel Chair Pontoon ボランティア 2~3名 (無人の車椅子のポンツーン⇔陸上運搬)
 - In Pontoon ボランティア 4~5名 (Boat Weighting の誘導係 (シャペロン Chaperone))
- Pontoon 近くに CC テントと S/T テントが1つずつあり、そこに個人の荷物を置いたり、休憩を取ったりした。

• 今回は中央の Pontoon が仮設のつづら折りスロープ付きの Wheel Chair 専用だったが、車椅子を Pontoon に置いたままにさせないためにボランティア (一部 NTO) を急遽張り付けることにしていた。運用してみて初めて人員配置が必要と気付いたようだった。

② Responsible Control Commission の基本動作

• Out Pontoon と In Pontoon、そして Boat Weighting と Athlete Weighing の全体をコントロールするのが主な任務。基本的には Out/In Pontoon の近くにいるが、必要に応じ Boat Weighting、Athlete Weighing にも顔を出す。

• CC の中で唯一トランシーバーを持っているので、PoJ やその他の部署とのやり取りを行う。例えば Boat Under Weight が発生したら Boat Weighting の ITO から連絡を受け、PoJ に連絡をする。(日本の審判と比較するとトランシーバーの利用頻度は極めて低い。)

• 服装・船体のスポンサー・ID 等の確認については、CC 常駐の UC メンバーと相談しながら対応する。

③ Control Commission Out Pontoon の基本動作

• ITO 2名と NTO 2名が協力して Athlete・Boat の確認を行う。具体的には、Athlete 本人確認 (Photo Book・Accreditation Card)、Advertisement・Identifications (Final A 用の T シャツを含む)、Safety (Bow Ball・Quick release foot stretcher・Heel Rope)、Communication and Electronics、Cox Dead Weight 等の諸点である。

• ボランティア 4~5名は Bow Number・GPS の取り付けを行うために走り回っている。艇を担いで Out Pontoon に歩いてくるクルーを国名ステッカーやユニフォームにより判別し、Start List を見て該当する Bow Number と GPS を S/T テントから持ち出す。クルーが Out Pontoon に乗る前に呼び止め、クルー名を告げて再確認した上で Bow Number と GPS を瞬時に取り付ける。

• これらを以下一連の流れ (計 10 秒程度) で次から次へと進めて行く。

- ボランティアがクルーを呼び止める → クルーは艇を担いだまま立ち止まる
- ボランティアが Bow Number・GPS を取り付ける
- 並行して ITO/NTO が各種確認作業を行う
- ITO が行って良いと伝える → クルーは Out Pontoon に向かう



(写真) Photo チェック



(写真) Stretcher 確認



(写真) マスキングテープ各色



(写真) Bow Number・GPS



(写真) GPS 充電



(写真) Bow Number・GPS 取付

④ Control Commission In Pontoon の基本動作

・In Pontoon では、艇計量対象クルーへの指示、デッドウェイトの確認、帰艇したクルーの記録、Doping Control 対象クルーの特定、等が主な任務。艇や服装の広告違反があれば次回以降正すようクルーに注意した。

・艇計量対象クルーへの指示は ITO が行う。(クルーへの指示前に NTO には伝えない。) 指示をするのは艇を担いだクルーが Pontoon の渡し板から陸上にかかるタイミング。

・Para 種目の場合、選手が車椅子で移動し、コーチ等が艇を担ぐことがあるが、伝えるタイミングは同じである。PR1 の補助フロート(左右の「浮き」)を外した状態で艇計量を指示した場合は、補助ポンツーンを取り付けた上で艇計量所に来るように伝える。

・艇計量対象クルーは NTO に誘導してもらうため、ITO は NTO との意思疎通が重要である。CC-In に配置されたら NTO の名前(ファーストネームが良い)とそれぞれ英語がどれだけ通じるかを聞き、メモしておくが良い。ITO がクルーに艇計量を指示した後、すぐに NTO がエスコートを始めないとクルーはどこかへ行ってしまふかもしれないが、これは絶対に避けなければならない。NTO が ITO の近くに常に待機していれば良いが、実際にはある程度の距離から NTO を「John!」などと呼んでこちらを向かせ、Boat Weighing にエスコートするように身振り手振りで伝えることが多くなり、その際に名前を呼ぶ必要が出てくる。NTO に対して「何をやっているんだ!」という表情は NG で「よろしく頼んだよ!」という明るく前向きなコミュニケーションが必要である。

・艇軽量対象クルーは PoJ がランダムに決定し、Responsible CC と CC-In に伝達する。今大会では PoJ が対象クルーに丸を付けたり、「対象は○着と△着」と記載したりした Start List を 5 枚程度コピーしたものを Responsible CC に手渡し、それが更に CC-In に手渡された。(大会によっては口頭で聞き取り自分でメモする必要がある。) 着順で指定された場合、戸田のように無線で連絡がある訳ではないので CC-In は Responsible CC と相談して着順確認の方法を決めておく必要がある。今大会では Boat Park (艇置場) の大型モニターを見た後、走って Pontoon 周辺に戻るか、Live Streaming や Live Tracker などの同時配信情報をスマートフォンで見ることで確認した。

・Start List のクルー名には「帰艇済み」と「計量指示済み」を書き込んでいった。自分の場合は「帰艇済み」は右上から左下へ斜線を、「計量指示済み」は左上から右下へ斜線を、それぞれ書き込んでいる。尚、CC-In の部署交代時には Start List をそのまま引き継ぐと帰艇確認と計量指示確認に漏れが生じない。

・Doping Control 対象クルーについては、審判は Identify する(特定する)のが任務であり、すぐに Chaperon に引き渡すことと PoJ から指示があった。(余計なことはするなということ。)

・PR1・PR2 種目が実施される大会で既設の In/Out-Pontoon が車椅子対応ではない場合、車椅子専用 Pontoon が設置されることがある。今大会ではつづら折りのスロープが付いた専用 Pontoon (In/Out 兼用) が全体の中央に仮設されており、結果として In-Pontoon が通常用 2 つと車椅子用 1 つとなり、CC-In の ITO 2 人が 3 つの In-Pontoon を見なければならぬ状況だった。



(写真) 車椅子専用 Pontoon



(写真) 車椅子預りテント

⑤ Out Pontoon での出来事

・ Heel Rope が長過ぎることを ITO/NTO から指摘されたケースでは、コーチが適正な長さに調整する対応が見られた。シューズのマジックテープが左右別々（リリースするには 2 回のアクションが必要）のケースでは、コーチが自分のネクストラップ等を左右のマジックテープに渡し、即席の Quick release 構造にする対応が見られた。

・ PoJ 及び UC の Mr. Kris からミーティング時に以下説明があった。

- ・ Cox の Additional cloth は Uniform の下に着ること（Uniform が見えなくならないように）
- ・ Final A と Final B で着用義務がある T シャツは、今大会では数が足りず、Final B の M8+ に限り、過去の T シャツでも良いことにしたが、クルー内では揃っている必要がある
- ・ PR1 の背もたれが動くなど疑問があれば Para Rowing Commission メンバーに伝えること
- ・ ガンネルの内側の manufacture 表示をマスキングしているのを見たが、その対応は不要

・ ダブルエントリーした ROU の女子選手が、時間的に綱渡り状態で 2 つの Final A に出漕し、見事に金メダル 2 つを獲得するという事象があった。UC メンバーは W8+ のレースに遅れが生じないか事の成り行きを注視していた。（Jury に対しては特別な指示はなかった。）

No.252 W2x Final A: 13:54 発艇→14:01 頃 Finish→表彰式 14:16～14:24→陸上を走って出艇棧橋へ
No.256 W8+ Final A: 14:30 岸蹴り→14:59 発艇

⑥ In Pontoon での出来事

・ Race 91/LW1x/Repechage3/NED のレギンスの片足にメーカー名の表示があり、Manufacturer の 30 cm²よりは確実に大きく、Sponsor の 50 cm²よりも大きく見えた。出艇時にそのことに気付いた UC の Mr. Kris から Responsible CC の自分に対し「上陸後のクルーに対し『メーカー表示を測りたいのでレギンスを脱いで持ってくる』と伝えるように」と助言があり、その通り伝えた。クルーは了解したと言ったが、結局戻って来なかった。レギンスに限らず着用した状態で採寸すると元のサイズより大きくなってしまいうため、脱いで持って来させるのだと Kris から説明があった。

・ Race 105/M8+/Heat1 で 1 位になった GBR が Boat Weighing 対象であったため動向を注視していたところ Out Pontoon で艇を揚げようとした。その日の最後から 3 レース目のため、既に出艇するクルーはおらず危険はなかったものの、Pontoon に走って行き「No!」と叫び阻止しようとしたが「朝はここが In Pontoon だった」という内容のことを口走りながら強行突破で艇を揚げられてしまった。（Day 1～5 は Training と Race とで Out と In が入れ替わっていた。）上陸後に Boat Weighing を告げたが、Yellow Card を出すなどの措置は取らなかった。事後に UC メンバーに事態を説明したが、危険がなかったのなら仕方ない、と言われてしまった。

・ Race 67/M1x/Repechage2 で Boat Weighing 対象の ITA が In Pontoon で艇を降りた後、（まだ計量対象であることを告げられていない段階で）シューズに水をかけ始めた。In Pontoon に駆け下り「Don't do that!」と叫んだが「シューズを洗っただけだ」と平気な顔をしていた。一度、陸上まで戻り、クルーが Pontoon から陸上に渡ったところで Boat Weighing を告げた。UC の Ms. Angela からは「不要なことはしないように」と注意を受けた。WR 大会では「不要なこと」で

あることを理解していたつもりであったが、対象クルーが上陸する際に不正行為をしないよう注視するという戸田でのルーティーンがつい出てしまった。

・レース終了後の指定給水場所は Finish 対岸のモーターボート桟橋だったが、そこには大会役員が配置されていなかった。(Umpire や CC がケアするには距離がありすぎた。)水を渡すついでに艇の重量を調整する等の違反行為ができてしまいそうだと PoJ に進言したが、特に対応は取られなかった。

⑦ Victory Stage Police

・ユニフォームについては表彰式でも統一が求められるが、Day 7 と Day 8 は CC-Out を終えてフリーになった Jury 1 名 (Mr. Luca ITA) が「Victory Stage Police」との呼び名で PoJ から指名され、靴下などを含むユニフォームチェックを行った。

(7) Control Commission - Athlete Weighing (選手計量)

① 部署メンバー

・ Athlete Weighing にいたメンバーは次の通り。

- ・ ITO 1 名
- ・ NTO 1~2 名

・朝の早目の時間帯に選手計量があり、Jury Meeting と時間が重なる場合は、UC メンバーが ITO の代わりに (NTO と共に) 計量を行っていた。これは ITO 全員が Jury Meeting に参加するのを優先したことの現れであろう。

② 基本動作

・最終日は終日 Athlete Weighing だった。軽量級種目は前日までに終わっていたため、舵手計量を 3 レース分 (17 クルー、内 4 クルーが DW あり) 担当した。

・計量室 (Official Weighing) には Photo Book 1 冊と本計量器 (Official Scale、ディスプレイとプリンター付き) 2 台が、待合室 (Waiting Area) には予備計量器 (Test Scale、ディスプレイ付き) 1 台が準備されていた。

・部署に着いたら 20kg の標準おもりを乗せて計量器の正確性を確認した。

・選手が来たら Photo Book で本人確認を行い、本計量器で計量を行う。

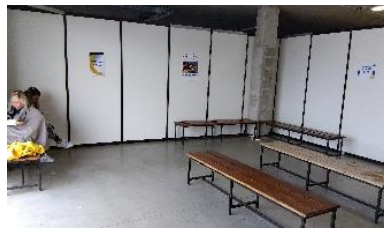
・規定重量以上であれば「OK」と言って選手を返す。

・規定重量未満であれば NTO が Dead weight (DW) を作成した。DW は厚手のポリエチレン袋 (30×60cm くらい) に砂を入れ、黒いテープでシールをし、袋にクルー名と重量を書いて選手に渡していた。海外の大会では前日までの DW を持参する Cox がいると聞いていたが、今回そのような Cox はいなかった。

・DW を作成する都度、その情報を Resp CC に伝達した。(同時に WhatsApp の Jury グループに送ったが誰からも反応はなかった。)



(写真) 本計量



(写真) Waiting Room



(写真) 予備計量



(写真) Photo Book



(写真) 砂とナイロン袋



(写真) ナイロン袋への記載

③ Athlete Weighing での出来事

・ NTO が舵手計量の実務を勘違いしており、計量結果が 53.5 kgなのにそれを記録せず、1.5 kg の DW を抱えて再度計量器に乗った時の 55.0 kg を記録していた。その NTO は CZE ではベテランの審判で Athlete Weighing は何度も経験があるとのことであった。経験があるという言葉を鵜呑みにせずの確な実務を行っているか確認する必要があると感じた。

・ No.248 M8+ Final B #1 CZE の Cox はユニフォームを着てこなかったので出直して来させた。

・ 同レース #2 CHN の Cox は水を口に含み、手で塞いで部屋に入ってきたので「No water, please!」と告げた。またユニフォーム以外をたくさん着込んで来たので「Only uniform!」と告げてユニフォームだけにさせて計量した。結果は 54.8 kg で DW を 0.2 kg 作成した。

(8) Control Commission - Boat Weighing (艇計量)

① 部署メンバー

- ・ ITO 1名
- ・ NTO 2名

② 基本動作

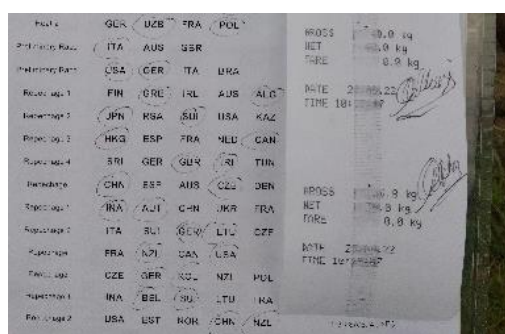
- ・ 今回の艇計量所は、艇庫の一角（屋内）に設置されていた。
- ・ 計量器前後 2 台がディスプレイとプリンターに接続されており、計量器にはめ込まれているウマ（艇置台）はエイトからシングルスカルまで同じものを使用。
- ・ クルーは計量所に入ってから艇を返してウマに置き、外すべきものを外す。その後、クルーは艇から離れ（手を放し）重量を確定させる。

③ Boat Weighing での出来事

・ Race 85 / PR2 Mix2x / Heat1 で Boat Weighing 対象の MEX が上陸時に艇に固定すべき錘を手を持って歩いてきた。In Pontoon だった自分は、Boat Weighing まで同行し、Boat Weighing 担当の ITO に事態を説明。ITO からは「次ラウンドから錘は艇に固定するように」と注意を行った。結果的に 36.8kg で BUW となった。



(写真) BUW の記録 (上半分)



(写真) BUW の記録 (下半分)

以上

World Rowing Championships

Racice (CZE) 18-25 September 2022

					
		<p>BOLCIC Fabio WR 1080 President of the Jury</p>		<p>The Juries</p>	
					
<p>GILI Juan Carlos ARG 1677</p>	<p>SCHOMBERG Caroline AUS 1612</p>	<p>STEVENS Gwenda BEL 1463</p>	<p>DOSTAL Radim CZE 1469</p>	<p>GUTIERREZ PRAENA Deniel ESP 1729</p>	<p>GRUETZNER Georg GER 1202</p>
					
<p>ZACCHIGNA Luca ITA 1588</p>	<p>NAKAJIMA Daisuke JPN 1627</p>	<p>HERRERO III Ismael PUR 1269</p>	<p>GOLOB Darko SLO 1211</p>	<p>MENTZER Sven SUI 1727</p>	<p>MAGNUSSON Gunnar SWE 993</p>
					
<p>POCHANASOMBURANA Praparnongs THA 1558</p>	<p>KHARDANI Sahibi TUN 1582</p>	<p>MEISNER Kirsten USA 1575</p>	<p>FORSHAW Eleanor FRA 1672</p>	<p>BLANDFORD-BAKER Mark GBR 1409</p>	<p>Đuro Ljubić CRO 1221</p>



<集合写真> ITO・NTO・組織委員会会長・UCメンバー



1 列目： ITO 9 名

2 列目（左から）： NTO 1 名、ITO 8 名

3 列目（左から）： NTO 2 名、組織委員会会長 Mr. Dusan、UC メンバー Patrick、Kris、Angela、Vladimir、
ITO 2 名、NTO 1 名

4 列目以降： 全員 NTO